【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成16年11月11日(2004.11.11)

【公開番号】特開2000-231316(P2000-231316A)
【公開日】平成12年8月22日(2000.8.22)
【出願番号】特願平11-31963
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０３Ｇ　21/10
　Ｇ０３Ｇ　15/00
　Ｇ０３Ｇ　21/00
【ＦＩ】
　Ｇ０３Ｇ　21/00　　３２６
　Ｇ０３Ｇ　15/00　　５５０
　Ｇ０３Ｇ　21/00　　３８６
　Ｇ０３Ｇ　21/00　　５１０

【手続補正書】
【提出日】平成15年11月20日(2003.11.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
また、本実施の形態では、トナー搬送ユニット６２は、図５～図７に示すように、ユニット着脱機構１３０にてメインフレーム２０に取り付けられている。
ここで、ユニット着脱機構１３０は、トナー搬送ユニット６２（トナー搬送ダクト７０，搬送オーガー８１～８４，駆動伝達機構９０）がネジなどの締結具１３２にて固定されるサブフレーム１３１を有し、このサブフレーム１３１に形成された適宜数の取付片１３３をネジなどの締結具１３４（図１１参照）にてメインフレーム２０に着脱自在に取り付けるようにしたものである。
特に、本実施の形態では、サブフレーム１３１は、図１１及び図１２に示すように、モータ側ギア１１１（図４参照、以下同様）のスタッド１１２が直接嵌合する位置決め孔１３５を有すると共に、当該位置決め孔１３５から離間した部位はメインフレーム２０側の位置決めピン１３６が嵌合する長孔状の位置決め調整孔１３７を有している。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
また、本実施の形態に係るトナー回収装置の取付構造について説明する。
例えばトナー回収装置を取り付ける場合には、先ず、トナー搬送ユニット６２をサブフレーム１３１に締結具１３２にて組み付けた後、メインフレーム２０にサブフレーム１３１を締結具１３４にて取り付けるようにすればよい。
逆に、トナー搬送ユニット６２をメンテナンスするような場合には、図１１及び図１２に示すように、メインフレーム２０に対するサブフレーム１３１の締結具１３４を取り外し、サブフレーム１３１と共にトナー搬送ユニット６２を各クリーナ２６，４１及びトナー回収ボトル６１のダクト受部（図示せず）から抜き出すようにすればよい。

このとき、本実施の形態においては、トナー搬送ダクト７０の各搬送ダクト７１～７４をばらす必要がないため、各搬送ダクト７１～７４の連結部から廃トナーがこぼれる懸念は全くない。
更に、本実施の形態では、トナー搬送ダクト７０の第１、第２の搬送ダクト７１，７２の接続部には上方側に向かう連通用開口７１ａ，７２ａが開設されており、また、第３の搬送ダクト７３の接続部には下方側に向かう連通用開口が開設されているが、トナー回収ボトル６１との接続状態が解除された時点でシャッタ７５が連通用開口を塞ぐため、トナー搬送ユニット６２取り外し時にトナー搬送ユニット６２から廃トナーが不必要にこぼれるという事態は有効に回避される。
尚、各クリーナ２６，４１及びトナー回収ボトル６１側のダクト受部もトナー搬送ユニット６２が取り外された時点ではシャッタ（図示せず）にて閉塞されるため、各ダクト受部から廃トナーが不必要にこぼれる懸念はない。